

47. コロナ禍における保育園健診の実態調査

小笠原由法、楠 幸広、岡田 靖

【初めに および目的】

新型コロナウイルス感染症の蔓延が収まらない中、保育園では休園・学級閉鎖などが相次ぎ、保育の現場は感染症対策で非常に困難な状況が続いている。そのような状況の中、園医健診がどのように行われているかを調査し、今後の園医健診に役立てることを目的とした。

【方法】

札幌市乳幼児園医協議会に属する園医活動を行っている医師96名にアンケート調査用紙を送付し、37名から回答を得た（回答率39%）。

【結果】

①緊急事態宣言あるいはまん延防止期間における

園医健診の実施状況

予定通り行った 37%

延期した 57%

中止した 6%

②コロナ流行後の検診内容の変更の有無とその内

容について

変更有 24% 変更なし 76%

主な変更点としては、咽頭を診るのをやめた、PPEを装着しての検診、密を避けるため部屋の変更や換気の徹底、などであった。

③コロナ流行後の検診について不安であったか否か

不安であった 32% 不安なし 68%

主な不安点は園児から検診医あるいはその逆の感染への懸念、園での感染対策、検診医が園での接触により濃厚接触者になる懸念、健診行為がクラスター発生の要因になることへの懸念などであった。

④コロナ流行後、園から園医への相談について

相談件数が増えた 28%

減った 0%

変わらない 62%

主な相談内容は、園での感染予防対策について、コロナ発生時の対応について、などであった。

⑤コロナ流行中の検診で行った感染予防対策について

マスクの着用97%

手指のアルコール消毒85%

ゴーグルの装着38%

ガウン装着22%

などであった。

⑥園でコロナ発生時における園医への連絡について

て

すぐに連絡があった 54%

暫くしてから連絡があった 6%

連絡が無かった 22%

との結果であった。

⑦園の感染症対策についての感想では、全く問題

なしとの回答が19%、ほぼ十分 70%、不十分

11%とおおむね良好な印象を受けていた。不十分

な点としては 園児同士の距離を取るの是不

可能との回答やテーブル、おもちゃ等備品の消

毒が不十分との回答があった。

【まとめ】

保育園では密を避けたり、マスクを装着させる

ことは非常に困難であることから感染症対策には

おのずと限界がある。その中でも、各園は消毒・

手洗い・職員の感染症対策などをできる限り行っ

ている。

今回の調査では様々な制約の中、園医健診を行

うことが必ずしも容易ではない実態が明らかにな

った。また、コロナ禍をきっかけに園から園医

への相談が増加しており、相互の情報交換、感染

症対策に関する助言など園医の役割が増加してい

ると考えられた。